

在宅医療・介護多職種連携協議会

啓発・広報部会

～報告～



目 的

在宅医療・介護に係る市民啓発について検討する。

- 市民啓発推進の検討
- 在宅医療情報紙わがやの発行
- その他，在宅医療に関する啓発関係の検討

内 容

第3回部会
令和5年1月23日
オンライン会議

報告 無関心層への啓発活動
地域啓発活動（わがや20号，21号，出前講座）
在宅医療認知度アンケート

議事 啓発で目指す市民の姿の設定
問題に対する原因の深堀と対策の検討

I 報告 (1) 無関心層への啓発活動

昨年度（R3）に部会で検討いただいた企画案を、今年度実施しました

企画案		実施状況
スポーツ チーム	ENEOSサンフラワーズの 選手へのインタビュー記事の掲載 （「わがや」第20号）	<ul style="list-style-type: none">✓ 新人3選手と市立柏高校生徒と一緒に学ぶ出前講座を実施（R4.5.30）✓ 渡嘉敷来夢選手へのインタビューを実施（R4.6.20）✓ わがや20号と市ホームページで、当日の様子を紹介
グルメ チーム	「スープレシピ5選」 レシピコンテストの実施	<ul style="list-style-type: none">✓ スープレシピの募集（R5.1.4） →11作品の応募あり✓ 1次審査（R5.1） 2次審査（R5.2） 発表（R5.3）*（R5年度）わがや特別号発行*（R5年度）道の駅しょうなんで期間・数量限定メニュー化
有名人 チーム	動画の作成 ・在宅医療や関連する事項に関心を 呼び起こすもの ・スポーツ、グルメ企画と連動した もの	<ul style="list-style-type: none">✓ パッパラー河合氏による柏地域医療連携センターの紹介（R3.11）✓ スポーツチームとの連動 渡嘉敷来夢選手へのインタビューを実施（再掲）✓ グルメチームとの連動 市内有名飲食店の店長、フリアナウンサーを審査員に

● テーマ：元気なうちから考えておこう！「今からできる介護への備え」

- 無関心層に向けた在宅医療・介護への入口の提示
- メインターゲットは「無関心層のうち、まだ両親が元気な世代」を想定
 - ターゲット層が共感できるキャラクター設定により「自分たちにはまだまだ無縁」と考えている人たちに向けて、在宅医療よりも一般的になじみのある「介護」に特化した内容で構成
⇒家族に介護が必要な状況になった時「とりあえず、これだけは知っておいて損はない」情報
 - 興味を持った人に対しては、わがやのバックナンバーへの誘導

◆ 紙面構成

● インタビュー

⇒仕事や生活と介護を両立した経験をお持ちの方からのコメント

● 専門職からのアドバイス

⇒初めての方にもまず訪れてほしい窓口、「地域包括支援センター」の紹介を兼ねて

● いざという時のための介護のポイント

⇒「今からできること、普段からやっておきたいこと」についてのメッセージ



■ 在宅医療出前講座

申込状況 (令和5年1月4日時点)

対象	申込件数	実施回数 (多職種講演回数)	参加人数 * 延数
老人会・サロン・町会など	10	8 (0)	150
民児協・地区社協・ふる協	1	1 (0)	24
その他 (市民団体, NPO等)	1	0 (0)	0
合計	12	9 (0)	174

(R3年度実績：計9回/209名)

《申込状況》

3月に3件予定

《参加者からいただいた声》

- 柏市に住んでよかったと思えるような取り組みを聞いて、すこし安心しました
- 具体的にどうすればよいか、相談できる所はどこかを知ることができてよかった
- 関わってくれる専門職の方々の連携の広さや密さが、患者には助かり、ありがたい
- 経験したことがないので、今回の講座を通じて、実際に適切な行動がとれるか自信はないのですが、前もって知っておくことは大切だと実感しました
- とても丁寧に説明してもらったが、やはりその場にならないと実際には動けないと思った

ACP (アドバンス・ケア・プランニング) の内容
を含めた講座や

柏市社会福祉協議会発行の

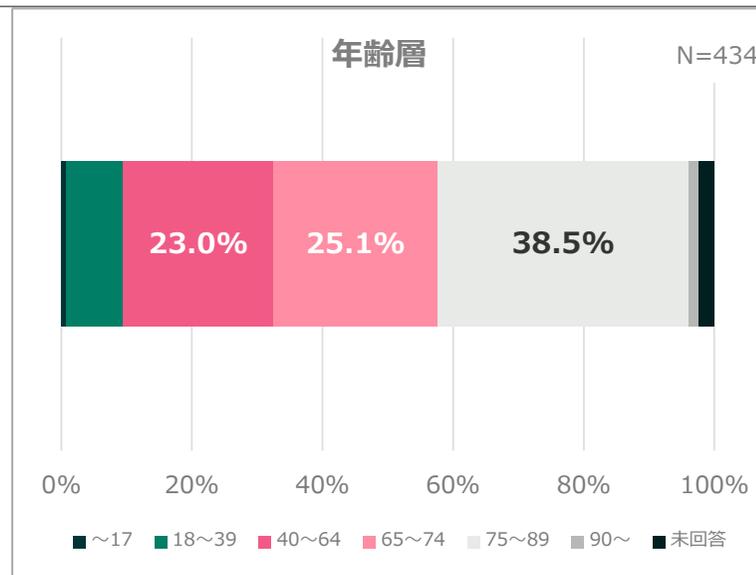
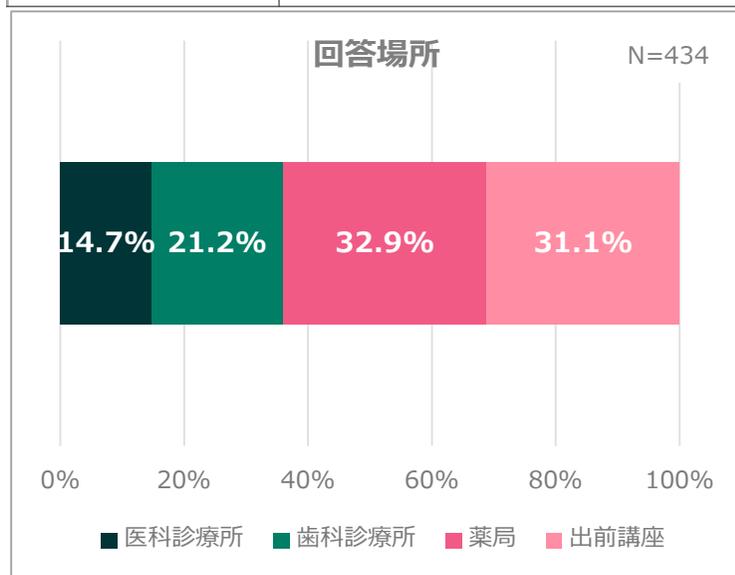
『わたしの望みノート』の啓発講座と
コラボした講座も行っています！



I 報告（3）在宅医療認知度アンケート

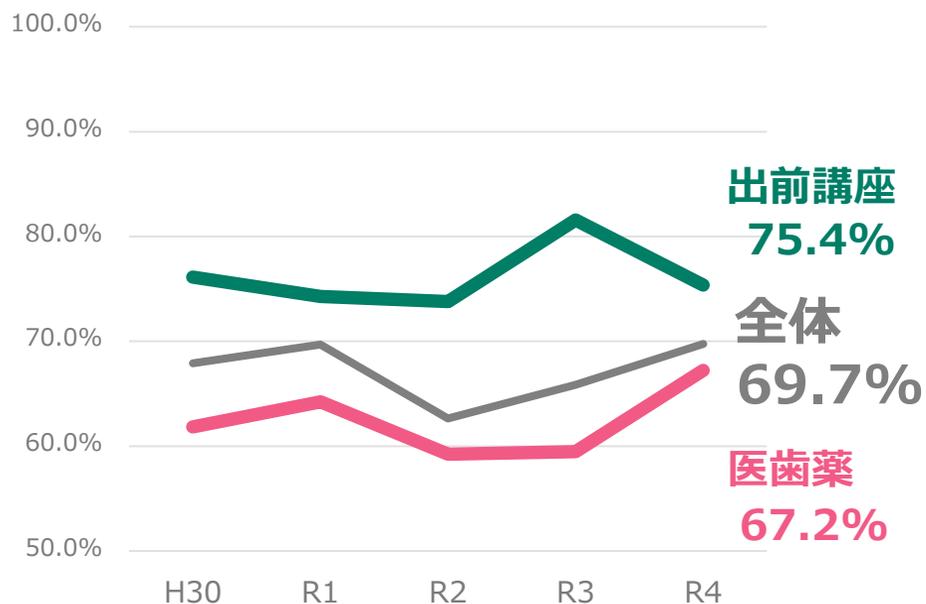
■ 概要

目的	啓発・広報活動の評価と取組みへの参考とするため
実施方法	3師会各会員に、来訪者が回答できるようアンケート用紙の設置を依頼 出前講座の受講前に回答を依頼
対象	医科・歯科診療所、薬局等来訪者 出前講座参加者
実施時期	毎年11月から12月（出前講座は随時）
回答数	434名 * 【内訳】 医科・歯科診療所、薬局等来訪者：299名、出前講座参加者：135名

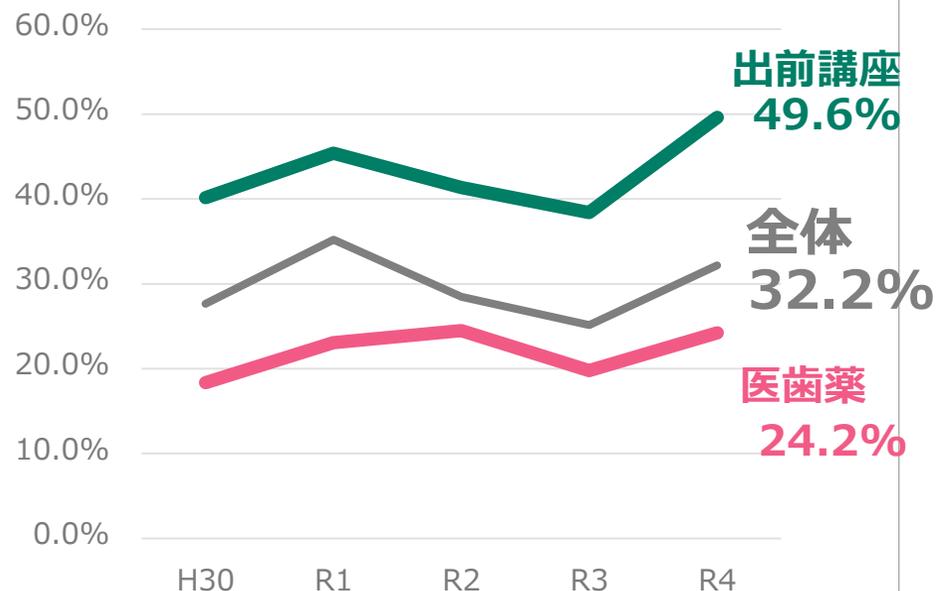


■ 結果

Q 通院が困難となった場合、
在宅医療を利用できることを知っていますか？



Q 在宅医療情報紙「わがや」を
知っていますか？



※「読んだことがある」と「見たことはある」を合算

在宅医療の認知度

H30年度から横ばいとなっている

「わがや」の認知度

H30年度から横ばいとなっている

Ⅱ 議事 啓発で目指す市民の姿から考えるこれからの取り組みについて

課題意識 市民啓発を通して、**市民にどうなって欲しいのか**
柏モデルが10年経過した今だからこそ

目指す市民の姿の設定が必要ではないか

連携協議会で示された方向性や柏市の介護保険事業計画（通称：いきいきプラン21）から**目指す姿を作成**しました。

連携協議会で示された方向性

市民が希望する治療や介護，療養場所に関する意思表示の大切さについて理解できる情報発信，市民啓発の充実

介護保険事業計画における目指す姿

すべての高齢者が，その人らしく，住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまち



目指す市民の姿

**ひとりでも多くの市民が
人生の最終段階の暮らし方について
近しい人と日頃から繰り返し話し合っている状態**

※啓発活動は、「いくつになってもその人らしく暮らせるようにする」ための手段の1つ

問題（テーマ）の設定

人生の最終段階の暮らし方について

1. 考えていない
2. 元気なうちから話し合う必要性を理解していない
3. **話し合いの大切さを理解していたとしても、近い人と、元気なうちから話し合えていない**
4. 繰り返し話し合えていない

↑ **今回のテーマに選定**

選定の理由：

大切さを認識しているからこそ、適切な施策を行えば反応してもらえる
= **行動変容を得られやすい**と考えたため

（人物設定）60代の元気高齢者

- 家族構成：妻（60代）、子（30代 会社員 子有）
両親死去（病院）
- 仕事：定年をすでに迎え、短時間勤務
- 体調：自身・家族ともに大きな病気はなく、自身は血圧の薬を定期的に服用している程度
- 趣味：ゴルフに月2回行っている
- 人生会議について：テレビで見聞きした
- 自身の人生の最終段階の過ごし方について：
漠然と考えており、話し合うことが大切だと理解しているが、実際に話し合ったことはない



「人生の最終段階の暮らし方について、話し合う大切さを理解している60代は、なぜ近い人と話し合えていないのか」その原因と対策をご議論いただきました。

GWで導き出されたご意見

問題（テーマ）：人生の最終段階の暮らし方について、話し合う大切さを理解している60代は、なぜ近しい人と話し合えていないのか

【1G】考えられる原因

- ・起きてほしくないことを認めたくないという**否認の意識**（日本人の死生観の問題？）
- ・話し合うメリット、話し合っていないデメリットが**経験**するまでわからない
- ・話し合っていなかったことでどんなことが起こるか**具体的なイメージ**が持てていない
- ・**よりよく生きるための情報に比べて、最終段階を迎えるために必要な情報の提供が不足している。**
- ・介護は突然始まるものだが、自分のこととして実感できていない（**自分事**）
- ・子供に迷惑をかけたくないから話しづらい

【2G】考えられる原因

- ・ネガティブなことなので**話す気**が進まない
- ・理解はしているが元気だから**話すきっかけ**がない。**タイミング**がない。
- ・話し合った**経験**がない
（自分の親とも話したことがない。身近に経験がない）
- ・言葉は知っていても内容を理解していない
- ・**人生最終段階のより具体的なイメージがないから話せない**（どの時期が最終段階か、延命処置など）
- ・元気なので先のことを考えられず、**自分事**になっていない。
- ・**こどもの負担**になるから話さない。

【1G】対策

- ・医療・介護に関する情報共有や啓発・教育の機会を、組織の垣根を越えて実施する（行政・教育機関と連携）
- ・人生最終段階をテーマにディスカッション：各世代・世代間
- ・死生観を含めたライフプランの情報提供（葬祭業者と連携）

【2G】対策

- ・夫婦で老後の趣味等の延長で話す：60代夫婦
- ・人生最終段階の選択肢を専門職から伝える（緩和ケア、点滴、人工呼吸等）：全対象
- ・カードゲーム等で話し合うきっかけを作る（人生最終段階ゲーム等）：祖父母と孫
- ・高齢者すごろく：高校生
- ・学びの場からきっかけを作る（ACPセミナー等）：60代
- ・子育てを終えた世代向けの啓発（ライフプランセミナー）：50代

いただきましたご意見を元に、「啓発で目指す市民の姿」に近づくように、問題解決に必要な対策の検討と実施、評価を部会で進めて参ります。

令和5年度第1回部会（5月か6月頃予定）

- ・啓発で目指す市民の姿に近づくための対策の検討
- ・スープレシピ5選の結果報告，および
在宅医療情報紙『わがや』を活用した啓発活動の検討 等

